

リハビリテーション Q & A

特集にあたって

「総合リハビリテーション」誌では、およそ 5 年に一度増大号を発行しています。前回は、2007 年の「リハビリテーション医学 2007—最近 10 年の動向とエビデンス」と題したものでした。今回は、リハビリテーション医学のエビデンスや技術といった視点とは違った立場から、「リハビリテーション Q & A」と題する増大号を企画しました。本書は、リハビリテーションを志すあらゆる医師や専門職を対象とした、リハビリテーションに関する基礎的な知識を Q & A 形式でわかりやすく理解するための活用事典と考えています。

2005 年に日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医会「リハビリテーション科専門医需給に関するワーキンググループ」からリハビリテーション医需給に関する報告が出されました。これによると、日本リハビリテーション医学会で専門医制度が発足して以来、毎年 30～60 人の新たな専門医が誕生しています。しかし回復期リハビリテーション病棟の増床など医療制度の変化に伴い、リハビリテーション医療においてリハビリテーション科専門医のニーズは非常に高まっており、現在の専門医数では圧倒的に不足しています。したがって、①臨床急性期・一般病床、②臨床回復期、③臨床維持期・地域支援、④教育・研究などの幅広い分野で、リハビリテーション科専門医を増やして行くことが必要です。またリハビリテーションが扱う疾患は、脳血管疾患、脊髄疾患、整形外科疾患、呼吸・循環器疾患、神経筋疾患、切断、小児疾患などと多岐に亘り、それらに関わるスタッフも、リハビリテーション科専門医同様の知識の整理が望まれます。

本特集では、リハビリテーション医療の第一線で活躍するリハビリテーションの専門家に、これだけは知っておきたいリハビリテーション医療の基礎知識について、Q & A 形式でわかりやすく解説していただきました。各項目につき 4～5 つ程度の Question が用意されており、リハビリテーションの概要、処方の実際、予後、注意点など、それに対する回答、解説がなされています。

リハビリテーション専門医を志す医師の専門医試験対策のみならず、リハビリテーション医療に関わるあらゆる関連職種が本書を活用し、リハビリテーションチーム内外で、リハビリテーションの基礎知識について共通理解が高まり、より円滑なコミュニケーションが図られることを願っています。

「総合リハビリテーション」編集委員会